

2005 年 (平成 17 年) 5 月 1 日 日曜日 (毎月 1 日発行)

1 部 50 円 (消費税込・送料別) 発行所/天台宗出版室 発行人/出版室長 工藤 秀和 〒520-0113 大津市坂本4-6-2 天台宗務庁内 電話 077-579-0022 (代) Eメール/T-Press@tendai.or.jp

総登山・総授戒 あなたのの中に 仏に会いに

極微 ごくみ 昼ひなか電車の中で眠って いる人が多いのにビックリし たと外国人が言っていた。 我々は見慣れてもいるし、自 身もそうだから何の違和感も ないが、彼らの眼には異様に 映るらしい。眠っているのが の灯りを横目に見ながら、日 の出と共に起きる生活を取り 戻そうと思う。

曼殊院門跡第 41 世に 半田孝淳大僧正が晋山

京都曼殊院門跡に四月十六日、半田孝淳大僧正が晋山し第四十一世門主の法灯を継承した。半田門主は、天台座主を補佐する次席探題職でもある。半田門主の就任により、京都には半田門主をはじめ、小堀光詮三千院門主(探題)、森川宏映昆沙門堂門主(探題)と比叡山の天台座主を補佐する形が整った。

曼殊院門跡は、京都五箇堂門跡と呼ばれる由緒門跡のひとつで洛北屈指の名刹。宗祖伝教大師最澄上人により、比叡の地に創建されたが、天



お孫さんから花束の贈呈を受ける半田新門主

暦年間(九四七〜九五七)、是算国師のとき比叡山西塔北溪に移り、「東尾坊」と号した。北野天満宮が造営されると初代別当職に補され、以後明治維新まで北野別当職を歴任した。半田門主は、是算国師から数えて四十一代目となる。

半田門主は、長野県上田市の古刹・常楽寺の住職で天台宗教学部長など要職を歴任し、現在は天台宗宗機顧問会長。就任祝賀会には、渡邊恵進天台座主猊下や母袋創一上田市長など宗内外から約六百人が出席した。半田門主は「ご本尊様の思し召しとして、一和尚として老骨をなげうって勤めたい。法灯を守り、後の世に伝える

よう努力する。国内外に愛慮すべき事態が数多くあるが、この解決には宗教者があたらなくてはならない。八十八歳を迎えるが、今までローマ法王と十一回お会いし、世界平和を語り合った経験から、その解決に少しでもお役に立ちたい」と語った。

宗教サミットの父

ヨハネ・パウロ二世聖下を悼む



ヨハネ・パウロ二世 (写真=ロイター・サン)

ローマ法王ヨハネ・パウロ二世聖下が、去る四月二日ローマ法王庁(バチカン)で逝去された。八十四歳だった。ポーランド人のヨハネ・パウロ二世聖下は一九七八年十月に二六四代の法王に就任。スラブ系では初の法王となった。キリスト教会の和解や異なった宗教との対話を注がれてきた。

一九八六年には、イタリ

的指導者を招き「世界宗教者平和の祈り」を開催。聖下の「異なった宗教どうしの対話が、世界平和への道を開く」という精神を継承して、翌一九八七年には日本で初めての「比叡山宗教サミット」が行われた。以来、天台宗と総本山延暦寺では、毎年八月に記念行事を開催している。また、二〇〇一年九月の同時多発テロの翌年一月には、世界の異なった宗教代表者を特別列車でアッシジに招き、世界平和を祈願したことは記憶に新しい。天台宗から代表団が参加して、平和実現を討議し、共に祈った。

後任の第二六五世ローマ法王には、ドイツのラッツィンガー枢機卿が選出された。ヨハネ・パウロ二世聖下のご逝去に対し、天台宗は次のように哀悼の意を捧げた。

ヨハネ・パウロ二世聖下が提唱され、アッシジで世界の宗教者を集めて開催された「世界宗教者平和の祈り」に山田恵諒天台座主猊下が参加いたしました。そのことが契機となり、日本宗教代表者会議が結成され、日本で初めて国内外の代表的宗教指導者を集めて世界平和を祈る「比叡山宗教サミット」が一九八七年に開催されたのです。そのサミットに聖下は「平和は祈りなくては成就しません。戦争は少数の人によって始められても、平和はすべての人々の連帯と協力を必要とします」とのメッセージを寄せられました。今こそ、私たちは聖下のお言葉を、深くかみしめる秋であると存じます。ここに、心よりのご冥福をお祈り申し上げます。合掌

法灯

くらしの中に生きている「お墓」 信濃教区布教師会会長 吉沢康道

最近「お墓などいらぬ、お骨は山か川に…」という人が現れ始めている。これに対して、私が感動した話を紹介したいと思う。ある日のこと、戦後まもなく都会へ出て行かれた母とその娘二人が、寺の隣の墓のことで相談にみえた。三人揃ってのことに、何か思いつめたものを感じて話を聞くと、次のようであった。父は今次大戦の末に戦死、まだ新戸で墓地など無かつた母は、本家の墓地の片隅に墓を建てさせてもらった。環境の良い田園の丘にあるその墓地は、まだ幼かつた娘たちの通学路の近くでもあり、学校からの帰りに近くの叢で遊んだり、父と遊んでいるような気持ちで墓のまわりの草花を摘んで供えていた思い出の墓であるという。それから六十年近い歳月を経て、娘たちもそれぞれ他家へ嫁した。気丈夫な母は一人暮らしを続けているが、やがて「お迎え」の時も来るであろう。その時母のお骨をどこに納めたらよいのだろうか。今のままで父の墓へのお参りも遠のいてしまうので、寺の裏地の墓地へ父の墓を移し、母のお骨も、ここに納めさせてもらいたい。三人で話しあつた結論であるという。早く希望を伝えてあげると、半年後、墓の移転も終え、家族だけで父の法要を寺で済ませた彼女たちは、安心して待つ面持ちで帰って行った。日本人がお墓やお骨に寄せる心情と、そのもつ精神的、文化的役割は大きなものがある。このことを忘れてはならない。



花想 風言

晩春から初夏にかけて山野で見かける、可憐で小さなフデリンドウ。花の直径がわずか2センチほどだから、目をこらして眺めないとわからない。つぼみの形が筆の先つぼのような薄紫色の花は、以前には横浜市内の丘にもスミレと混じって一面に咲いていた。同じ時期に咲く仲間にはハルリンドウ、コケリンドウがある。リンドウ(竜胆)の学名はゲンチアナ。古代ギリシアの王で、リンドウの根の苦味を利用して健胃薬を作った王の名による。日本では「笑みみぐさ」とも呼ばれる。苦さに笑いも止まるといふことから来たらしい。日光の「二荒山縁起」には、

第14回 フデリンドウ 福田徳衍(文・写真)

役小角(役の行者)が日光の山奥で修行中、ウサギがしきりになめている草を発見し、菓草として庶民にひろめた、と記される。かつて珍重された熊の胆は病に効くものの、もの凄く苦いというので、子どもの時に熊胆を飲ませるといわれただけで「あ、病気は直ったよ……」と逃げ回った覚えがある。その熊胆よりも強い竜胆の胆を想像したらしい。秋咲きのリンドウは華道で盛んに使われる。茎が長いエゾリンドウをフレームで栽培出来るようになってリンドウにはすっかり季節感がなくなった。

◆プロフィール  
一九六九年東京生まれ。十歳から二十歳まで比較して小僧生活を過ごした。元朝日新聞記者。信越教区新潟部、徳法院住職。俗名 福田 徳衍。

鬼手仏心

木のいのち

天台宗出版室長 工藤 秀和

人には人のいのちがあるように、木にも、それぞれにいのちがあります。そのことは、日々自然に触れることで分かっていたつもりでしたが、先頃法隆寺金堂や、薬師寺金堂などの解体修復工事を手がけられた、宮大工棟梁の西岡常一さんの「木のいのち木のころ」を読んだ。一層その思いを強くしました。

伸びているし、乱れもない。鉋をかければ、いまでも楢のいい香りがする。「この寿命をまっとうするだけ生かすのが大工の役目ですわ。千年の木やったら、少なくとも千年生きるようにせな、木に申し訳がたちませんわ」と語られています。

西岡さんは、千年生きた楢は、材にされてからも千年のいのちを持つと言います。五重塔などは、千三百年経つても空に向かって一直線に

インド霊鷲山紀行(3)

九州東・霊山寺住職 植田 恵秀

霊鷲山を参拝した後、王舎城の牢獄跡へ行きました。ここは「観無量寿經」に説かれていた阿闍世が父王を幽閉した牢獄跡です。父王の頻婆沙羅は、ここからお釈迦様のいらつしやる霊鷲山に向かつて合掌礼拝されたといわれています。また、西に沈む太陽を見て、西方浄土を感じた地とも言われています。私たちは、ここで五体投地をして、当時は偈びました。

王舎城の城壁の跡では、戦車のわだち跡といわれる型が、岩盤に鮮明に残っています。歴史の重みを感じました。その次に訪れた竹林精舎は、頻婆沙羅王がお釈迦様に

た像が祀られてありました。日本の密教に通じるような気がします。ヒンドウの僧侶は、祭りにあたつて断食し、経文を読み、ホラ貝を吹いています。インドでホラ貝というのも奇妙な気がしました。護摩を焚いている姿も見かけましたが、護摩壇は三角です。移動する途中の村で、ミルクティーを飲み、菓子を食べて食べました。甘い、甘い菓子です。菓子のケースにはミツバチが群がっています。驚いて見ていると、店主が「うちの菓子がいかに甘くて旨いか、ミツバチがPRしてくれている」というのは笑いました。ベナレスの朝は早い。夜明け前に聖なる河と呼ばれるガンジス河に向かいます。ヒンドウ教の聖地で、年間百万人が巡礼に訪れます。ガンジス河が、聖なる河といわれるゆえんは、インドではこの河だけが南から北へ流れ、下から上へ流れ、天に昇るイメージがあるからです。ガンジス河の岸は南北六キロにわたつて、ガートと呼ばれる階段テラスになっています。目が昇ると同時に祈りが始まりです。人々は、石鹸で体を洗ったり、祈つたりしています。沐浴



(終わり)

の最後は、手でガンジスの水をすくい、太陽に捧げて日々の幸せを願うのです。マニカルニカ・ガートは火葬場です。ヒンドウ教では、ここで荼毘にふされて、その灰を流してもらおうことが願いです。五千年間絶やされていないという種火で焼かれますが、その薪を買う金のないひとは、そのまま流されるという話です。日本人から見れば、決して衛生的とはいえません。我々は船をチャーターして、灯をともしたローソクの皿をガンジスに流しました。生と死が混在する夜明けのガンジスに、我々が流したローソクが静かに流れてゆきました。インドは一度ぐらい訪れただけでは、なかなか理解できない国です。機会があれば、是非もう一度訪ねてみたいと思いつつ、今回の旅を終えました。



# A Story in the Tendai

## 自分の手足でお堂を建てる これが修行

埼玉・定宗寺住職 鶴岡宏正 師

# 仏と生きる



子どもたちのなぞなぞに「大阪城を建てたのはだあれ？」というのがある。「豊臣秀吉」という答えはバツで、正解は「大工さん」なのだそう。これで、いけば有名社寺でも、何でも建てたのは「大工さん」ということになってしまふ。

ところが、茶室や鐘樓堂、八角堂までも自分で建ててしまふ住職がいると聞いた。埼玉県東松山市石橋の定宗寺・鶴岡宏正住職である。

### 文明に頼らず五感を信ずる

天台宗では、現在、開宗千二百年慶讃大法会を記念して「一願一行」運動を展開している。一行というのは、ひとつの行動を興そうという意味である。

堂宇を創建したり、改修したりすることはもちろん、寺誌を作ったり、檀信徒の新規布教なども含まれる。

鶴岡住職は、寺の総代から「寺で使うなら」と檜を寄進されたことにより、八角堂を建てようと発願した。そこま

でなら、よくある話だが、自力で土地を整地し、基礎を造り、木を削って、壁や屋根は一部専門家の手を借りるにしても、丸ごと自分の手で建ててしまおうというのは、あまり例がない。

実は、鶴岡住職が自力で堂宇を作るのは、これが初めてではない。

### 反骨を貫く一徹住職

平成元年に六角堂、二年に七角堂、三年に鐘樓堂を自力で建立している。六角堂は、知人が奈良・薬師寺の三重の塔の図面を手に入れ、二十分の一のミニチュアを寄進してくれたところから建設を思いついた。「納めるお堂がないんじゃあ、どうしようもないから」。続いて十三仏堂である七角堂を建立した。今回の八角堂は納骨堂で「六、七、八と揃うのが楽しみで」という。やがては、五角堂も作り、丸いお堂も造ってみたいという。

丸いお堂を作るというても、どんなふうにして作るのでしょうか？「板を日光に当てて、反らして、それを組み立てていけば、丸いお堂が出来ます。舍利殿に、円形のお堂があります。五角と円は是非

もともと、大学で史学を



自作の鐘樓堂の前で

すから。日々、自分の精神力をためずという意味も大きい。息子もいますが、なるべく自分ひとりで、仕事をします。今日は、ここまで、明日はこれと、続けるのが楽しい。しかし、疲れた日もあれば、寒い日もある。

「そうではあっても、やり続けてゆくことに意味がある」と鶴岡住職は言う。

自分の身体を使って整地をする。土方作業こそ修行だ。道具を手入れて研ぐ、板を削る、それが全部修行だというのである。生活即修行というのが鶴岡住職の信条なのだ。

戦争では、東京や熊谷の機銃掃射も見てきたし、敗戦直後に、焼け野原となった土地にバラックが建てられ、徐々に復興してゆく風景も目の当たりにした。人間はやれば出来るし、やらねばならないと思う。出来ることは他人を頼らずに、自らの肉体を使って必要なものを作るという姿勢である。少なくとも、釈尊の時代の仏者たちはそうだった。そんな大昔のこと



柱の加工も一人で行う

字を作るのは、コンピュータの端末を動かして、株を操作し多額の金を動かすのとは違う。それがスマートな仕事と思う人々には、決してわからない世界である。定宗寺の手作り堂宇を見ていると、我々あまりに文明に麻痺している、と思わざるを得ない。理屈と行動との二つがあれば、どちらを優先させるかということでもある。

### 一隅を照らす

### 第2期 續天台宗全書

全十巻 予約購入募集中！ 天台宗特価

- ◎前半一括前払い 100,000円 (5巻代金・消費税・送料込)
- ◎各巻前払い 21,630円 (1冊代金・消費税・送料込)

ご購入には上のどちらかをお選び下さい。

入手困難な佛典の画期的翻刻印刷 天台宗典編纂所編 春秋社刊行

### 第2回配本 宗要光聚坊 下

天台宗典編纂所 FAX 077-579-6639 ぜび寺院に1セットお備え下さい。

お問い合わせ 天台宗典編纂所 電話 077-578-5190 第1期全15巻は完結終了しました。有り難うございました。

専攻して、中学校で歴史を教えていた人である。三十一歳で「東松山史稿」を著し、現在でも公民館や、いきがい大学で古文書を教える。定宗寺は、父の弟子が住職をしていた寺だった。跡継ぎがなかったため、四十七歳で寺に入った。

世間の風によく当たったせいか「偉そうにしたい」という住職らしくしたくない」という。それよりも、身体を使って、屋外にいたい、土を這って歩きたい、という気持ちの方が強い。幸い、寺には一反の畑がついていた。野菜やジャガイモを栽培するのが楽しみである。



片岡仁左衛門 中村雁治郎

天台宗開宗1200年記念 比叡山新歌舞伎 宿泊パック

■宿泊パック設定日 7月30日(土)~8月7日(日)の毎日 ※8/3(水)と8/6(土)は除く。

■ご旅行代金 40,000円 (お一人様・2名一室利用) ※シングル利用の場合は45,000円になります。 ※7/30のみ3,000円UPとなります。 ※シングル利用の場合は48,000円になります。

■行程

- 午後 お客様各自にてチェックイン→(16:00) ホテルにて京懐石料理のご夕食→(17:00) 送迎バスにて比叡山新歌舞伎特設会場へ→(18:00) 会場到着→(18:30) 比叡山新歌舞伎 開演〜ご鑑賞〜(21:00) 終演→送迎バスにてホテルへ→(22:00) ホテルお部屋にてお夕食を一望朝ホテルにてご朝食後、お客様各自にてチェックアウト

■企画 ROYAL OAK HOTEL ロイヤルオークホテル

■お申し込み・お問い合わせは、近畿日本ツーリスト 大津支店まで ☎077-522-7518 [平日9:00~17:45/土・日・祝日休]

コンパス  
天台宗宗機顧問  
杉谷義純



### 万博テーマの 願いと現実

愛知万博(愛地球博)が去る三月二十五日より、半年間にわたって開催されている。万国博覧会とは、一八五一年ロンドンで開かれて以来、ニューヨーク、パリ、ウィーンをはじめ、欧米各国の主要都市で開催され、日本が初参加したのは、一八七七年のパリ博覧会である。当時は江戸幕府の他に薩摩と佐賀藩が別個に出品したという。

万博はその時代の各国の科学技術の粋を集約したかたちとなり、人類の力を誇示する場ともなった。特にアジア初の一九七〇年の大阪万博には「月の石」が展示され、入場者は六千五百万人にも及び、史上最高を記録した。大阪万博のテーマは「人類の進歩と調和」であったが、それから三十年、人類は大きな危機に直面している。科学技術の進歩はめざましく留まることを知らないが、平和は常に脅かされ、富の格差、人口増加、資源枯渇、環境破壊など、調和を崩す問題が次々と起っているのである。特に環境破壊は深刻だ。

そこで二十一世紀初頭の万博となった愛知博は、テーマを「自然と叡智」として環境を前面に出し、循環社会の建設に未来の展望を開こうとしている。そもそも人類の環境破壊は、農耕や牧畜をはじめたときからだという。やがて鉄器

を使用する頃になると、その製造、使用に大量の木材が必要となった。紀元前二千五百年頃の、クヌール王ギルガメッシュが森の神フンバハを殺した、という物語が残されている。これはそれまで神聖なるものとして立ち入りを禁じられていた森が、資源として伐採利用されはじめたことを示している。森林資源を乱用しながら発展した文明は、世界四大文明がごとくそのうであるように、その資源を使い果して衰亡した。我々は自然の叡智に学ぶ前に、人類がかつて経験した誤りを再び犯しつつあることに、まず戦慄を覚えるべきではないだろうか。

さらには、人間は細胞ひとつ創れるわけではない。それなのにDNAを解析し自然界にないクローン研究に走ろうとしているが、自然の叡智の前ではもったいなく謙虚であるべきなのだ。一方、今度の万博では、新型ロボットが登場している。近未来にはこれが更に改造されて、人間に近い存在になるだろう。そしてベットに癒しを求めている人々が、自在に操れるロボットに殺到するかも知れない。かくして人間はますます人間同士のコミュニケーションをとるのが苦手になっていく。

自然の叡智とは、仏性を持ち出すまでもなく人間が人間らしくあることも含まれているはずなのだ。

### 百数十年ぶりに復活 法要初日から朱印を求める巡礼者

京都・洛陽三十三所観音霊場



四月四日、京都市東山区の清水寺で「洛陽三十三所観音霊場」の平成復興法要が、森清範同寺貫主の導師のもと執

り行われた。写真。我が国における観音信仰は聖徳太子が観世音菩薩をお祀りしたことからはじまった

変身は三十三にも及び、観音霊場の「三十三」という数は、この観音様の慈悲の象徴となっている。

とされており、「観音経(法華経・観世音普門品)」と共に全国にその信仰が広まり、今でも多くの宗派で信仰されている。「観音様」は娑婆世界で苦悩している衆生の声を聞くこと、その人と同じ姿に身を変え、そのひとに最もふさわしい教えと救いを授けるといわれている。その

京都市中心部の観音霊場を巡るこの洛陽三十三所観音巡礼は、広域で巡礼が困難な西国三十三所に代わり、平安時代に後白河法皇の勅願で始められたといわれるもので、江戸時代には庶民の間で広まったが、明治の廃仏毀釈などで廃れていた。

今回百数十年ぶりに再興された霊場は、宗派の垣根を越えた協力態勢を取り、活動を進めていくことになった。天台宗では行願寺、護浄院、真正極楽寺(真如堂)、蓮華王院(三十三間堂)が札所となっている。近年、心の拠り所を求めて、霊場巡りが人気を集めているが、この由緒ある霊場巡りの復活はその流れに勢いを与えるものとなった。(報告)本郷泉観通信員

### 天台トピックス

◎仏教青年連盟・分燈法要、代議員会開催  
四月十九日、比叡山延暦寺根本中堂において、「不滅の法燈」分燈法要が執り行われた。開宗千二百年慶讃大法会を記念して、仏教連盟が「不滅の法燈全国行脚」を行うにあたり分燈されたもので平成十七年四月から十九年四月まで、二十四地区を行脚する。

◎近畿地区協研修会  
五月二十四日  
京都センチュリーホテル  
◎仏教青年連盟中央研修会  
五月二十四日～二十五日  
天台宗務庁・学院寮  
◎中部地区教研修会  
五月三十日～三十一日  
三重・宝生苑

◎近畿地区協研修会  
五月二十四日  
京都センチュリーホテル  
◎仏教青年連盟中央研修会  
五月二十四日～二十五日  
天台宗務庁・学院寮  
◎中部地区教研修会  
五月三十日～三十一日  
三重・宝生苑

運動総本部地球救済事務局に百万円が寄託された。  
◎布薩作法研修会開催  
三岐教区では、四月二十日、法真寺を会場に、清原恵光比叡山行院院長を講師に布薩作法研修会を開催した。  
◎寺庭婦人連合会総会  
五月十七日～十八日  
山形・日本の宿古窯

### 祝 新任職任命

- 【埼玉・天心院】長谷川孝治師
- 【茨城・寶幢院】館 亮幸師
- 【東京・龍眼寺】市原孝信師
- 【東京・圓乗寺】市原孝壽師
- 【神奈川・大乘院】内田孝顯師
- 【兵庫・圓命院】熊谷亮澄師
- 【九州西・武藏寺】井上隆照師
- 【陸奥・櫻木坊】大和政弘師
- 【群馬・玉藏院】高岸行仁師



根本中堂で分灯された不滅の法燈は、24地区の仏青によってリレーされる。坂本代表から滋賀仏青代表に引き継がれスタート(19日)

### 示 寂

【京都・寂光院】瀧澤智明師  
【栃木・薬王寺】大堀時央師  
(平成17年3月23日)平成17年4月21日 法人部調  
小鴨 覺禪師  
平成17年4月8日遷化  
延暦寺一山総持坊住職  
4月16日日本葬儀執行

The Tandai Journal 天台ジャーナル

檀信徒の皆さまへの発送を代行します

本紙は、4月23日付で第三種郵便物に認可されました。認可により、全国への発送料が一律に60円という割引料金が適用されます。この機会に、是非檀信徒の皆様にも配布を頂きたく、定期購読のお願いを申し上げます。

なお、毎月の発送が煩雑とお考えの御寺院様のために、天台宗出版室では発送業務の代行をいたします。詳しくは、出版室にお問い合わせ下さい。

〒520-0113 滋賀県大津市坂本4-6-2  
天台宗務庁 総務部 出版室  
☎ 077-579-0022 FAX 077-578-4814

お問い合わせ

総本山延暦寺御用達

墓地・墓石・供養塔・石佛・灯籠・無縁改葬

京の石匠 河波忠兵衛 七代目

京都店・京都市伏見区醍醐鍵尾町11-2 TEL 075-572-8888  
大阪店・大阪府高槻市紅苜町2-8 TEL 072-688-1489

# 出雲の国神仏霊場結成

## 島根・鳥取の有志社寺で

島根県と鳥取県の有志二十社寺で結成された「出雲の国〔社寺縁座の会〕」(座長・清水谷善圭清水寺住職)では、このほど「出雲の国神仏霊場」を結成し、巡拝コースを制定した。四月二十三日に行われた霊場開きには、比叡山千日回峰行者、光永覚道大行満大阿闍梨による歩き初めが行われた。

出雲は八百万の神々が集う神話の国であり、千四百年の昔から、数多くの神社・仏閣を有する。また宍道湖や中海を囲んでの美しい風景を持つ。社寺縁座の会は、この地域で大自然に生かされている感謝と、ご縁を感じてもらおうと、昨年十二月に発足した。

今回結成された出雲の国神仏霊場は、出雲大社を始めとする十二神社と八寺院合同の霊場で全国でも珍しい。巡拝コースは二十社寺にそれぞれ巡拝番号を打ち、それに沿って出雲地方を大きく八の字を描いて巡るといふ壮大なラウンドルート。

### 光永大阿闍梨による歩き初めも

「慌てず、急がず、自分のペースで、結ばれたご縁を大切に。円くつなげて和をつくらう」という祈りをもつて巡って欲しい」と縁座の会ではいふ。

渡り初めは、午前七時三十分に関係者全員が日御



出雲の国「社寺縁座の会」  
出雲の国神仏霊場  
TEL.0853-67-0111

人の「ご縁」と「和」の心を大切に

「神仏霊場」シンボルマーク  
光厳期、中海を巡る社大なるの字道群ルートをシンボルマーク化しました。20の点は各が神社、曹がお寺をあらわし、さらに東海に向けての「羅刹大」の証がりを表しています。

神話の国 出雲の地に、あなたの「心の旅」がお待ちしています

20社寺紹介 活動内容 祭典・団練 巡拝のすすめ  
グッズ 巡拝のしぐさ リンク(社寺関係) リンク(その他)

公式ホームページは <http://shinbutsu.jp/>

出雲の国  
社寺縁座の会

朱印には、それぞれの社寺の名前、教えに因む文字などが刻印された「御縁珠」がついている



の輪づくりに一役かう。全国でも始めての試み。

## 開宗1200年記念特別事業として「眞光寺夜桜祭り」を開催

= 群馬仏教青年会 =



祭りは「大般若転読法要」から始まった

群馬仏教青年会(綾小路俊会長)では、去る四月九日渋川市の眞光寺(都筑玄澄住職)において、開宗千二百

## 本尊開扉法要を再興

### 開宗千二百年 慶讃大法会を期して

賀寺 應

去る三月十二日、滋賀県甲賀市にある善應寺(梅田義取住職)で、ご本尊十一面観音菩薩の中開扉が奉修された(写真)。

この中開扉は、近年行われた記録がなく、地元の文化を後世に伝えようと、住職と信

(報告)三浦密照通信員



年記念特別事業の一環として「渋川・眞光寺夜桜祭り」を開催した。

この日は、境内に咲き誇る桜に優雅な提灯でのライトアップがほどこされ、訪れた五百人を越す参拝者は昼間とはひと味違った桜の美しさに酔いしれていた。また同日は、声明や雅楽なども披露されたほか、同青年会々員も所属するジャズバンドの演奏も行われ、参拝の人たちも、幽玄の世界と現代音楽の世界、それぞれの雰囲気を楽しんでいた。

こうしたイベントと共に、

## デスクから

年度始めて何かと慌ただしいのに、五月連休が入るので締め切りと印刷・発送の日をちを繰り上げて、ふうふう言う

●本紙も創刊三年目に入ります。今年から一隅を照らす運動総本部が独自の機関紙を出すため、部数は減ったが、その分定期購読を申し込んでくれる寺院が、毎日少しずつ増える。有り難うございま

## 特別授戒会執行状況 (4月23日現在)

- ◆山形教区  
立石寺・薬師寺 4月22日～23日 戒弟688名  
三千院探題大僧正
- ◆東京教区  
知行院 4月23日 戒弟75名  
圓教寺已講大僧正

本堂、焰魔堂、観音堂、などの特別拝観も行われ、浄土曼荼羅図など日頃見られない寺宝の特別一般公開にも多数の人たちが訪れて興味深げに見入っていた。

また、境内では同青年会による「チャリティバザー」も開かれ、その収益は赤い羽根募金運動と天台宗の「一隅を照らす運動」に寄付することを予定している。

(報告)小川晃泰通信員

す。これからも、広報紙の枠を破って読者の皆さまの興味ある記事を出し続けますのでよろしくお願ひします●現代は、明治維新、終戦以来の価値観変動の時代といわれて久しい。信頼できるものがない自己責任の時代ということか。普段テレビはあまり見ないが、ホリエモンや、反目デモなど時々横目で見て、(なんといいことか)とため息をつく。

# 最澄と天台の国宝

Treasures of Tendai  
and  
Sectio

## 特徴と魅力 (1)

### 京都国立博物館 芸室長 久保 智康

開宗千二百年慶讃大法会が山場を迎える本年の秋、京都国立博物館では、天台宗、比叡山延暦寺、天台宗京都教区、読売新聞大阪本社との共催で、ほぼ二十年ぶりとなる大規模な天台宗の仏教美術展を開催します。

生きるための戒め、秘密行法により人々の願いをかなえる密教と、達磨大師の禅の教えなど、円・密・戒・禅の四宗を相承し日本天台の柱となりました。

本展覧会には、全国の天台宗関係寺院から二百件余りの宝物が出品されますが、それらはすべて右のごとき人たちの篤い信仰心を源泉に生み出されたもので、仏様の眼にかなうべく、一切妥協のない真摯な美をたたえています。

先にも述べたように、天台宗の教えは非常に幅広く、文化財の内容も多岐にわたります。本展覧会では、教えに沿っていくつかのテーマを設定しています。次号から、各々のテーマごとに展覧会の特徴と

魅力を紹介していきます。



**会期** 10月8日(土)~11月20日(日)  
**会場** 京都国立博物館(京都・東山七条)  
**お問い合わせ** 読売新聞大阪本社文化事業部  
☎06-6366-1809

# 雪が溶けて川となって

## 中尊寺貫首 千田孝信

母親とお風呂に入った三歳女兒の言葉  
「お母さん、太つばらだね！」  
これには、その家族一同大爆笑。「太つばら」が褒め言葉だ。  
母親が「お母さん、太つばらだね」と聞いて、親や大人の話し言葉に精一杯の聞き耳を立てて、大人の仲間入りしようと真似しているのだ。  
だから、幼いと思って決して

# お母さん、太つばらだね!

葉だと思って真似しているのだ。それが真を突いているから、よけい面白い。心温まる家庭の情景が目につく。  
子どもは聞いていないようだが、馬鹿にしてはいけないところだ。  
「こんな子、産むんじゃないか」  
ある非行少女は、わずか三、四歳だったころ、自分の

母親が、どこかのおばさんに言ったこの言葉を聞いた苦い記憶があるという。  
およそ母親として、絶対に口にしてはならない禁句をこの子は幼くして聞いてしまったのだ。どんなに幼くても、子どもは親のこころを敏感に感じとるものだ。  
この言葉がどれほど大きな心の傷(トラウマ)になって、この子を苦しめたか測りしれない。しかし、この子は書いています。  
「私はこの苦しみを心の奥に閉じこめました。閉じこめないで、生きてゆけなかったからです」  
非行少女というなかれ。悪たれの小娘のこころの奥に、こんな深い悲しみが潜んでいたとは、誰が察知できただろうか。  
「子宝は授かりもの」「仏さんからの預かりもの」という受けとり方を決して滅ぼしてはいけないと、しきりに思う昨今です。



カット・宇仁英宏「2000年の木」(アトリエ・ウーフ)

# 素晴らしい言葉たち

この無機物と私と、どこに違った所があるのか。全く同じではないか。すべて真如に包まれている。そしていまの瞬間、私が死ねばそれは単に真如の許に帰って行くだけのことでないか。それから先どうなるか、それは如来の御意志のままである。

司馬遼太郎が考えたこと1  
司馬遼太郎著・新潮文庫

作家の司馬遼太郎氏は、或る夜、草原に寝転がっていた。戦場で疲労困憊し、心臓と胃の他は全ての機能が停止してしまつたような極限状況だった。  
ふと眼前に草花を見つけた。その瞬間、「ここにも生きものがある。しかも、それは、私という生きものとは何ら本質の異なるものじゃない」と感じた。ささくられた黒い砂漠の石を握つてみた時も、同様な思いに至る。この瞬間、氏は大きな衝撃を持って今までと違う世界に入った。  
それまでは、単に有機物

である草花、無機物である石しか頭になく、自分と統合出来るものとして考えたことはなかった。しかし、この時、すべて真如(宇宙万有の実体)に生かされ、その前にあつては同じ存在だと感得したのだ。  
念仏が口の端に上つてく。南無阿弥陀仏。  
その時、自分を包む空気が合体し、砂漠の石くれとも合体した。死もたいした問題ではなくなった。静かな安堵が全身をひたし、あらためて生きる喜びを考えたい。

天台山は平成十八年に開宗千二百年の記念の年を迎えます

あなたのの中の仏に会いに

〒520-0113 滋賀県大津市坂本4-6-2 天台宗務庁  
天台宗開宗1200年慶讃大法会事務局  
TEL 077-579-0022 FAX 077-578-4814  
または、最寄りの天台宗寺院へ